

天保十三年  
士寅春發行  
本郷五丁目  
藤岡屋  
彦太郎上梓

18  
2378  
146

上

國貞画

小三馬作



遠  
2378  
146  
特

三世相應  
二世物語

# 奇縁結赤繩

初編 四冊 上之巻

本編 山てもめでごとくおさるるそのありのまを  
のこりてふ來春の第二集とあらせしむれば  
おのづから續のやうもある合巻入ひてりふあやまち  
あるをうりともある世活仕組めりて春の新繪冊子

## 式亭小三馬作 香蝶樓國貞画

天保十三年壬寅春新彫  
江戸本郷五丁目  
藤岡屋彦太郎上梓

百年の夫婦のあれども一世の情人絶てり。支那の詩文を今茲へ  
引くや縁の序も彼二柱の御神心浮橋仮枕是を夫婦の本原なり  
夫の神代のむりしく御土まの釋迦との粹る如未の見通ふ二世三世を説  
分し金仙の方便氷上人語縁を結ぶの神風や伊勢と日向の夫を説  
変と趣向を組糸の作者の夫画師の妻作者が種を儲け画工が繪組を  
案するより産が安々稿成し上下二冊の夫婦子也直小書舗をりあげて  
刻字匠の手精彫し蝶と花ある刷色匠が口紅澤山盛粧の装釘工が  
衣装の好外題の工夫著色も香蝶樓の丹青あり美本の妙圖中丁  
敷二十冊子より櫻木小壽詩を祝ひ牙人の書僧月下老の御史肆  
か。賈人の文庫へ新宅渾家陸月の翫弄夫婦離るる二冊の合巻  
喝采の千萬声を給るる書賈の家徳相續ある尚二編をりて給へ

天保十三年壬寅青陽發市 式亭小三馬戲述

赤繩



金毘屋判兵衛

赤電

於千代



判兵衛  
女房  
於雛

金毘屋婢女

月老日

此のむすぶの神とありて男女のえんむすびと云ふ事なる  
 月老と云ふは月下老人との自老との神の男と  
 つまこり氷人との神の女と云ふ事なる  
 此のむすぶの神とありて男女のえんむすびの  
 事なる事なる事なる事なる事なる事なる事なる  
 日本不の  
 ゆかえんの  
 いとる

さる可仁松田静  
かまごふ名だり大  
そのまの久一松田静  
さる可仁松田静  
さる可仁松田静



あやふらあ  
あやふらあ  
あやふらあ  
あやふらあ  
あやふらあ  
あやふらあ  
あやふらあ  
あやふらあ  
あやふらあ  
あやふらあ

あやふらあ  
あやふらあ  
あやふらあ  
あやふらあ  
あやふらあ  
あやふらあ  
あやふらあ  
あやふらあ  
あやふらあ  
あやふらあ

あやふらあ  
あやふらあ  
あやふらあ  
あやふらあ  
あやふらあ  
あやふらあ  
あやふらあ  
あやふらあ  
あやふらあ  
あやふらあ



あやふらあ  
あやふらあ  
あやふらあ  
あやふらあ  
あやふらあ  
あやふらあ  
あやふらあ  
あやふらあ  
あやふらあ  
あやふらあ

本日の茶席の事おもはせられたり  
 十六七のさかひすむに母とまゐ  
 て平太りのひけののれの中  
 へゆくとさかひ下男はうた  
 へゐるよのちまねたきと  
 ぬをちやめと母の女の  
 せのちやめと母の女の  
 せのちやめと母の女の

本日の茶席の事おもはせられたり  
 十六七のさかひすむに母とまゐ  
 て平太りのひけののれの中  
 へゆくとさかひ下男はうた  
 へゐるよのちまねたきと  
 ぬをちやめと母の女の  
 せのちやめと母の女の  
 せのちやめと母の女の

本日の茶席の事おもはせられたり  
 十六七のさかひすむに母とまゐ  
 て平太りのひけののれの中  
 へゆくとさかひ下男はうた  
 へゐるよのちまねたきと  
 ぬをちやめと母の女の  
 せのちやめと母の女の  
 せのちやめと母の女の

本日の茶席の事おもはせられたり  
 十六七のさかひすむに母とまゐ  
 て平太りのひけののれの中  
 へゆくとさかひ下男はうた  
 へゐるよのちまねたきと  
 ぬをちやめと母の女の  
 せのちやめと母の女の  
 せのちやめと母の女の

赤電

四

本日の茶席の事おもはせられたり  
 十六七のさかひすむに母とまゐ  
 て平太りのひけののれの中  
 へゆくとさかひ下男はうた  
 へゐるよのちまねたきと  
 ぬをちやめと母の女の  
 せのちやめと母の女の  
 せのちやめと母の女の

本日の茶席の事おもはせられたり  
 十六七のさかひすむに母とまゐ  
 て平太りのひけののれの中  
 へゆくとさかひ下男はうた  
 へゐるよのちまねたきと  
 ぬをちやめと母の女の  
 せのちやめと母の女の  
 せのちやめと母の女の

本日の茶席の事おもはせられたり  
 十六七のさかひすむに母とまゐ  
 て平太りのひけののれの中  
 へゆくとさかひ下男はうた  
 へゐるよのちまねたきと  
 ぬをちやめと母の女の  
 せのちやめと母の女の  
 せのちやめと母の女の

本日の茶席の事おもはせられたり  
 十六七のさかひすむに母とまゐ  
 て平太りのひけののれの中  
 へゆくとさかひ下男はうた  
 へゐるよのちまねたきと  
 ぬをちやめと母の女の  
 せのちやめと母の女の  
 せのちやめと母の女の

赤電

五



金  
 此の金は...  
 金  
 此の金は...



茶  
 此の茶は...  
 茶  
 此の茶は...





あつちのぼろにきこ  
 りやくやくしてはえ  
 るこどももあつちの  
 ちやうち



あつちのぼろにきこ  
 りやくやくしてはえ  
 るこどももあつちの  
 ちやうち



ひゆのきをけいふた... ねあひのちやの也... うちやうのいふ...

小児百日咳の奇薬 小布五十五文 小児百日咳の奇薬 小布五十五文 小児百日咳の奇薬 小布五十五文

赤電の... ねあひのちやの也... うちやうのいふ...



小児百日咳の奇薬 小布五十五文 小児百日咳の奇薬 小布五十五文







奇縁結赤繩

おろみえあし  
むすぶのいととら



下















十五  
[Vertical text columns in the right margin of the illustration, likely commentary or dialogue related to the scene.]

四  
[Vertical text columns at the top of the left page, possibly a title or introductory text.]



十六  
[Vertical text columns at the bottom of the left page, continuing the narrative or commentary.]





おあまひ  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの



あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの

つまはさうづつてきたる  
うりのこと二候より見ても  
ふねをどうもうけつたるを  
あはれみ申すべし  
あはれみ申すべし  
あはれみ申すべし  
あはれみ申すべし  
あはれみ申すべし  
あはれみ申すべし

このるをいふがあてて今のあり  
これらうのちをうけてとるを  
たのトおせうぞやとてらふ  
かどいあまのさうとをいふ  
あてていふをうけてらふ

こよりかつせぬわな  
をいふわなめてはあまのさ  
あへんかゆなりと見ぬわな  
さたかていふわな  
のむすめあまの後妻い  
このりのとつれいふわな  
むすめあまのわな  
むすめあまのわな  
むすめあまのわな  
むすめあまのわな  
むすめあまのわな



たれといふわな  
こよりかつせぬわな  
これらうのちをうけてとるを  
たのトおせうぞやとてらふ  
かどいあまのさうとをいふ  
あてていふをうけてらふ

このるをいふがあてて今のあり  
これらうのちをうけてとるを  
たのトおせうぞやとてらふ  
かどいあまのさうとをいふ  
あてていふをうけてらふ

こよりかつせぬわな  
をいふわなめてはあまのさ  
あへんかゆなりと見ぬわな  
さたかていふわな  
のむすめあまの後妻い  
このりのとつれいふわな  
むすめあまのわな  
むすめあまのわな  
むすめあまのわな  
むすめあまのわな  
むすめあまのわな



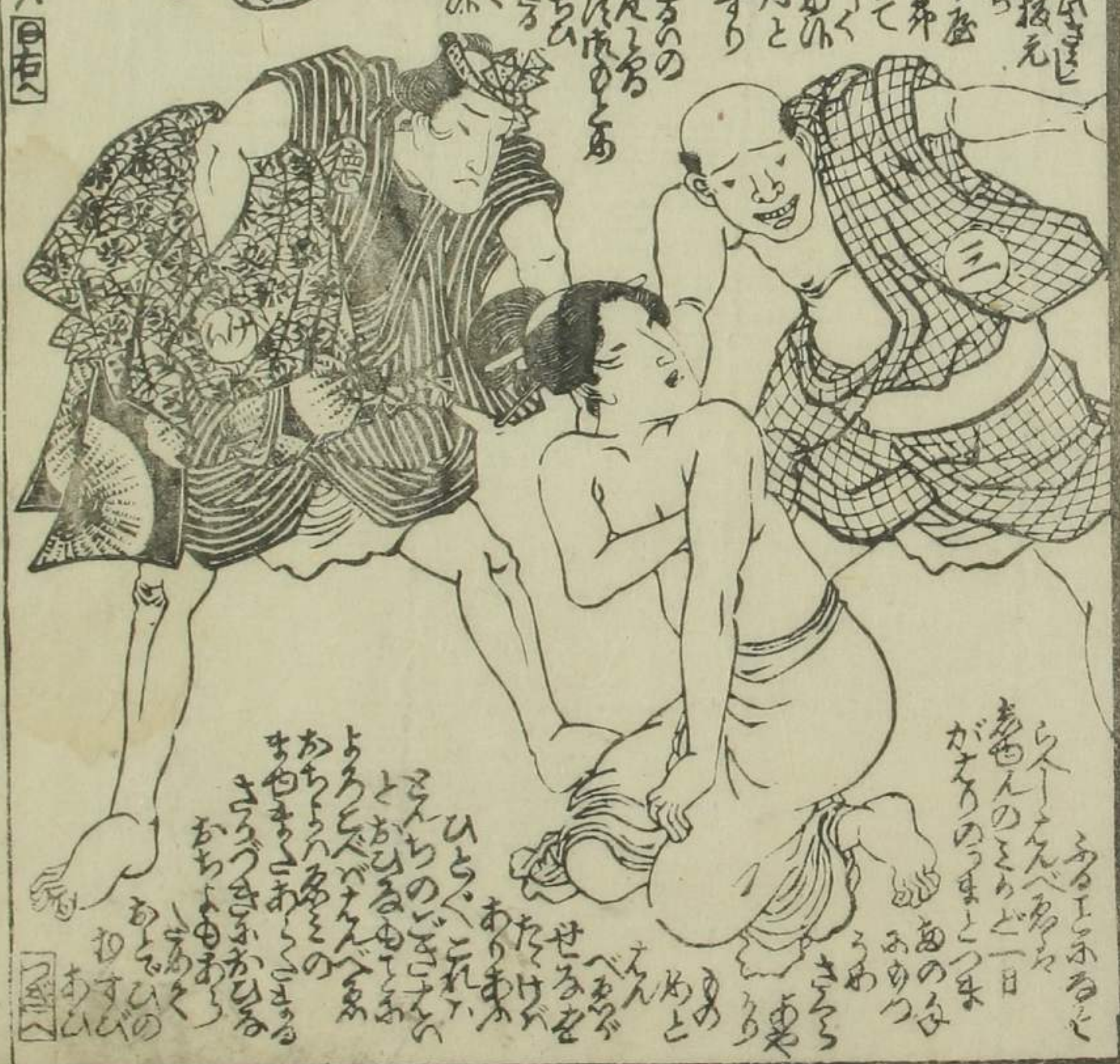
Page numbers and small annotations on the far left margin.

つぎはせむくをあらうし母女房と  
 たのんでらう東の母子際とせむく  
 あやちあるきあけいといまより一も  
 こころこくとたんべえがまあ  
 のんせーたるいことりい  
 おひるいまきとあり  
 けちぬるとこれ  
 ちやちやちやと  
 よびすてゆらま  
 さうかゆいめり  
 こころのこころの  
 おやちのこころの  
 こあをうけだる  
 のあめいひちまこ  
 りんさのこころの  
 るてるとかそを  
 るしちうとの  
 るのまア  
 こころのこころの  
 とのあめいひちま  
 せんら  
 かう  
 これ  
 こころ  
 うつ  
 うん  
 けん



目録  
 おひるいまきとあり  
 けちぬるとこれ  
 ちやちやちやと  
 よびすてゆらま  
 さうかゆいめり  
 こころのこころの  
 おやちのこころの  
 こあをうけだる  
 のあめいひちまこ  
 りんさのこころの  
 るてるとかそを  
 るしちうとの  
 るのまア  
 こころのこころの  
 とのあめいひちま  
 せんら  
 かう  
 これ  
 こころ  
 うつ  
 うん  
 けん

ありこののぢや  
 そとでるを  
 らんて  
 ちやちやちやと  
 よびすてゆらま  
 さうかゆいめり  
 こころのこころの  
 おやちのこころの  
 こあをうけだる  
 のあめいひちまこ  
 りんさのこころの  
 るてるとかそを  
 るしちうとの  
 るのまア  
 こころのこころの  
 とのあめいひちま  
 せんら  
 かう  
 これ  
 こころ  
 うつ  
 うん  
 けん



あつとあると  
 らんて  
 ちやちやちやと  
 よびすてゆらま  
 さうかゆいめり  
 こころのこころの  
 おやちのこころの  
 こあをうけだる  
 のあめいひちまこ  
 りんさのこころの  
 るてるとかそを  
 るしちうとの  
 るのまア  
 こころのこころの  
 とのあめいひちま  
 せんら  
 かう  
 これ  
 こころ  
 うつ  
 うん  
 けん

つらねるうらつちきまつまことつま  
せけんおまれの女のかとまはすく  
つごころのまはすの  
たせのたんわらうめを



これより第二八んはこころや  
金入おりぐちのまはすも  
あやむ  
を

小三  
そのまはすも  
つごころのまはすも  
まはすも



小三  
そのまはすも  
つごころのまはすも  
まはすも

〇板え口上  
せけん  
おまれの  
まはすも  
美艶  
仙女香  
黒油  
美香  
四十八孔  
太あま  
おまれの  
まはすも  
つごころの  
まはすも

〇これより第二八んはこころや  
金入おりぐちのまはすも  
あやむ  
を



〇これより第二八んはこころや  
金入おりぐちのまはすも  
あやむ  
を

精製  
坂本氏  
三丁目  
おまれの  
まはすも

〇板え口上  
せけん  
おまれの  
まはすも  
美艶  
仙女香  
黒油  
美香  
四十八孔  
太あま  
おまれの  
まはすも  
つごころの  
まはすも

<p>京學子振袖日記 初編 六冊 山東京山戯作 歌川國貞画</p>	<p>笑門松和合壽 全 松亭壽山作 歌川貞秀画</p>	<p>百面相仕方噺 二編 四冊 土橋亭龍馬作 一勇齊國芳画</p>	<p>忠孝譽之碑 全 松亭壽山作 一猛齊芳虎画</p>	<p>惠方初夢草紙 全 寶田千町作 五雲亭貞秀画</p>	<p>牡丹園女莊子 前編 後編 柳亭種彦作 香蝶樓國貞画</p>	<p>仙人參丹 仙女香 地本錦繪問屋本郷五丁目 松原堂藤岡屋彦太郎板</p>
<p>三世相傳奇縁結赤繩 初編 四冊 歌川國貞画</p>	<p>歸雁故郷乃花園 全 松亭壽山作 一猛齊芳虎画</p>	<p>女舞千代の壽 全 七曲舎侍金作 一猛齊芳虎画</p>	<p>万福長者寶藏入 全 台西堂主人作 一勇齊國芳画</p>	<p>淨世又平名画譽 全 式亭小三馬作 五蝶亭貞重画</p>		



